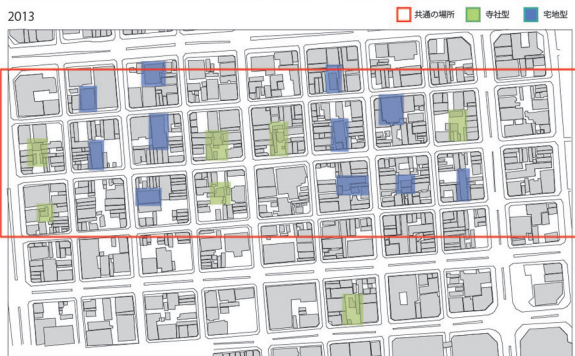


現代における会所の在り方

1. 問題提起

近世域下町では、街区をグリッド上に配置して、中央部に会所というオープンスペースを計画的に作り出していた。会所には、寺社・仏閣・火の見やぐらなどを配置し、非常時は兵士をかくしておく軍事的目的として、平時は人々が出会えるこぢい居場所として利用されていた。愛知県名古屋市においても、会所の存在は記録されている。しかし、下図からもわかるように会所はなくなってきた。そして、会所自体の、人が集まり憩う場としての特徴は失われてしまっていると言える。また、寺社離れが進むことで、より会所の利用率は減っていると考えられる。整備が行われてもなお、残り続ける会所。都市化が進み高層ビルが乱立することで、名古屋もついていた歴史的地域的特徴が失われてしまっている問題に私は取り組みたい。



2. 提案

現代における会所のあり方について提案したい。あり方とは、形であったり、利用方法であったりさまざまである。そこで、まず会所の形態について、3型に分けてモデルをつくり提案したい。3型とは、寺社型、宅地型、駐車場型である。3型によって利用方法も違いを表す。そこから、選定した街区について設計を行いたい。建築と会所のつながりを持たせる。また、会所を計画的に設けることで、どのように都市の表情が変化していくかを提案したい。

3. 敷地

今回選定した敷地は、愛知県名古屋市錦3丁目7番20号の街区である。そこには、圓輪寺というお寺が存在しており、寺社型の会所を持つ街区だと言える。しかし、圓輪寺は門を堅く閉ざしており、会所としての人が集まる場としての機能が薄れてしまっていると考えられる。また、街区内のビルは10階建てのものが多く、会所の環境はあまり良くないと言える。敷地周辺はさびれたビルや店舗が多く、栄の華やかでにぎやかな空間の裏の存在が広がっているように感じた。近くに、東山線栄駅と桜通線久屋大通がありアクセスは容易である。

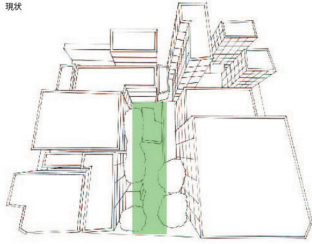
敷地情報	
用途地域	商業地域
敷地面積	3057.7 m ²
容積率	800%
建蔽率	80%
アクセス	
東山線栄駅	徒歩4分
桜通線久屋大通	徒歩4分



4. 計画案

1) 寺社型

現状

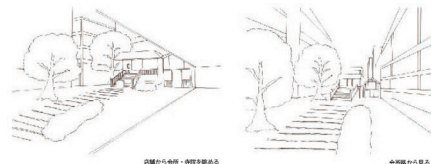
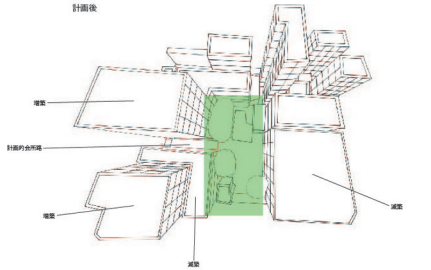


寺社型は緑があり、宅地型と比べると低密度な空間を作り出しており、街区の中でオープンスペースの役割を果たしている。しかし現状は、街区内部の高層化にもなっており、寺社が小さい空間におさこまれている状態である。



寺社型は、他の型よりも広々とした空間を作り出すように計画する。会所空間を広げるために、接している建築を減築したり、低層化する。減らした分の容積は他の建築に転用し、高層と低層の建築、会所によって、街区内に均一で新しい動きが生まれる。また、建築の庇部分には会所に顔を出せるようにすることで、寺院を感じられるようにする。

計画後

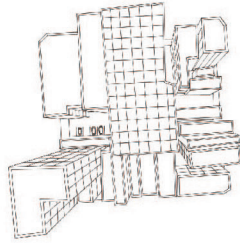


道路から会所・街路をみる

会所から見る

2) 宅地型

現状

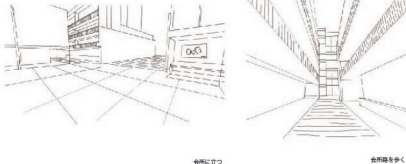
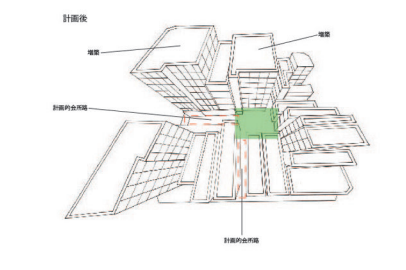


宅地型は、高密度な街区を形成しているところが多く、建築も古いものや新しいもの、空きビルなどさまざまな状態である。緑はなく、オープンスペースもない。目、会所や寺社があったところは、ビルに姿を変えている。



宅地型は、オープンスペースを作り出し、会所へのアクセスのための会所路の整備について計画する。街区の中央に会所を設けると考え、建築を減築する。減った容積は他のビルに転用し、空きビルや築年数が長く、使われていないものは会所路へと作り変える。会所や会所路に面する建築の庇部分はテラントにすることで「空」を採る。オープンスペースは、植栽をすることで緑を加え、街区内の安らぎの場にする。

計画後

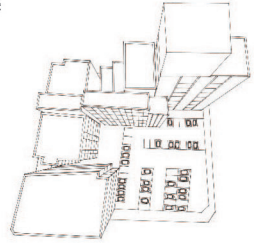


会所から見る

会所を歩く

3) 駐車場型

現状

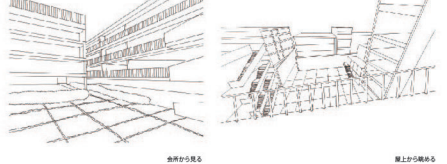
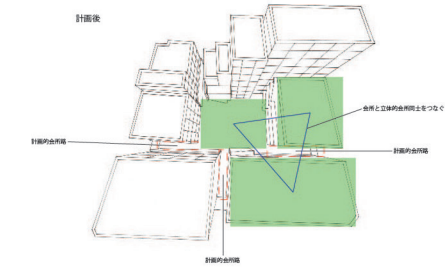


駐車場型は、平面的な駐車場が配置されており、その上空は有効活用されていない。オープンスペースとして、人が集まり、休んだりくつろいだりできるような空間ではない。



駐車場の上に建築をつくり、上空を有効活用する。作る建築には、減築された建築の容積・機能を組み込む。また、低層に建てることによって層と会所をつなげる。立体的な会所をつくり出す。屋上は緑化することで、緑を生みだし憩いの場とする。他の建築ともつなげて連続性をもたす。街区と道路、街区同士をつなげるために会所路を整備する。

計画後



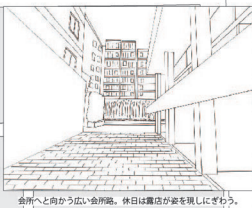
会所から見る

屋上から眺める

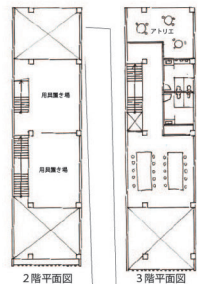
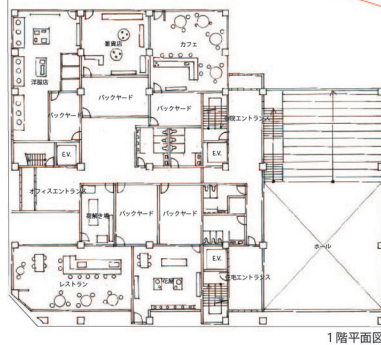
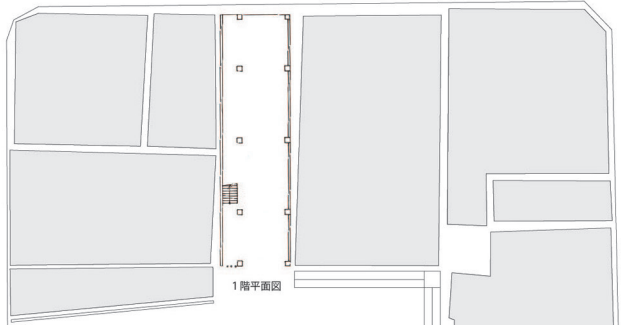
5. コンセプト

都市という多くの機能が集まる場が必要となる商業機能やオフィス・住宅に加え、敷地自体がもつお寺の機能を複合させる。さらに、会所とのつながりを意識した、立体的会所空間を作る。会所空間を吸収するように、地下空間にホールをもうける。会所から下るようにホールをつくることで会所と建築が立体的につながる。

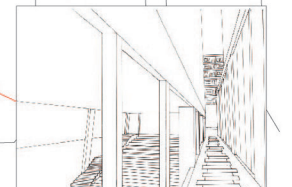
また会所路にかぶさるように建築をつくる。軽い印象を作るため、吹き抜けを入口2か所にもうける。街区外と会所をつなぐトンネルとなる。



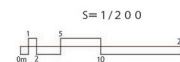
会所へ向かう広い会所路。休日は書店が姿を見しにせう。



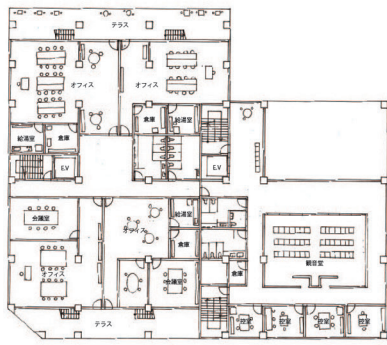
会所。ここでは、みどりとお水音に癒される憩いの場。



会所へつながる細く狭い道。この先には何があるのだろう。



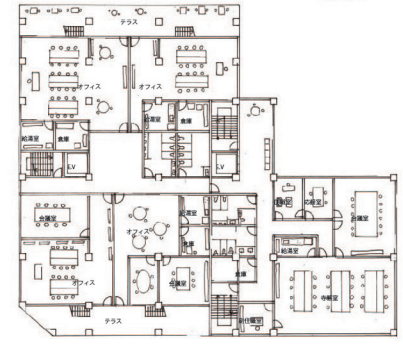
6. 各階平面図



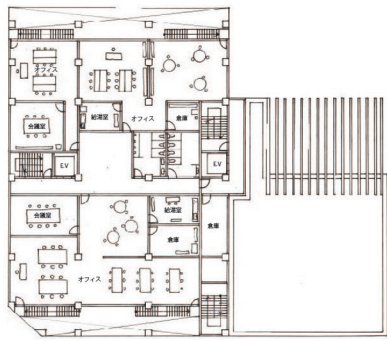
2階平面図 1/200



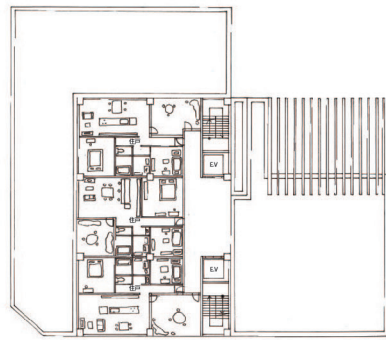
3階平面図 1/200



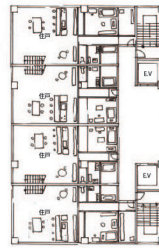
4階平面図 1/200



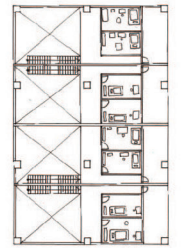
5階平面図 1/200



6階平面図 1/200



9階平面図 1/200



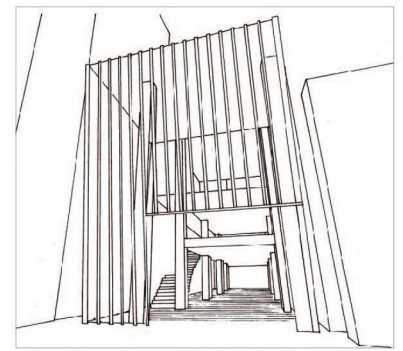
10階平面図 1/200



7. 立面図・断面図



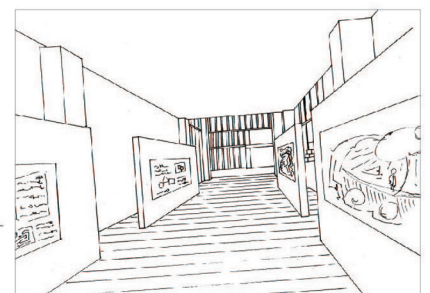
東側立面図 1/200



会所側から「遮れる芸術館」をみる。1階はピロティになって、ギャラリーとして使われる。



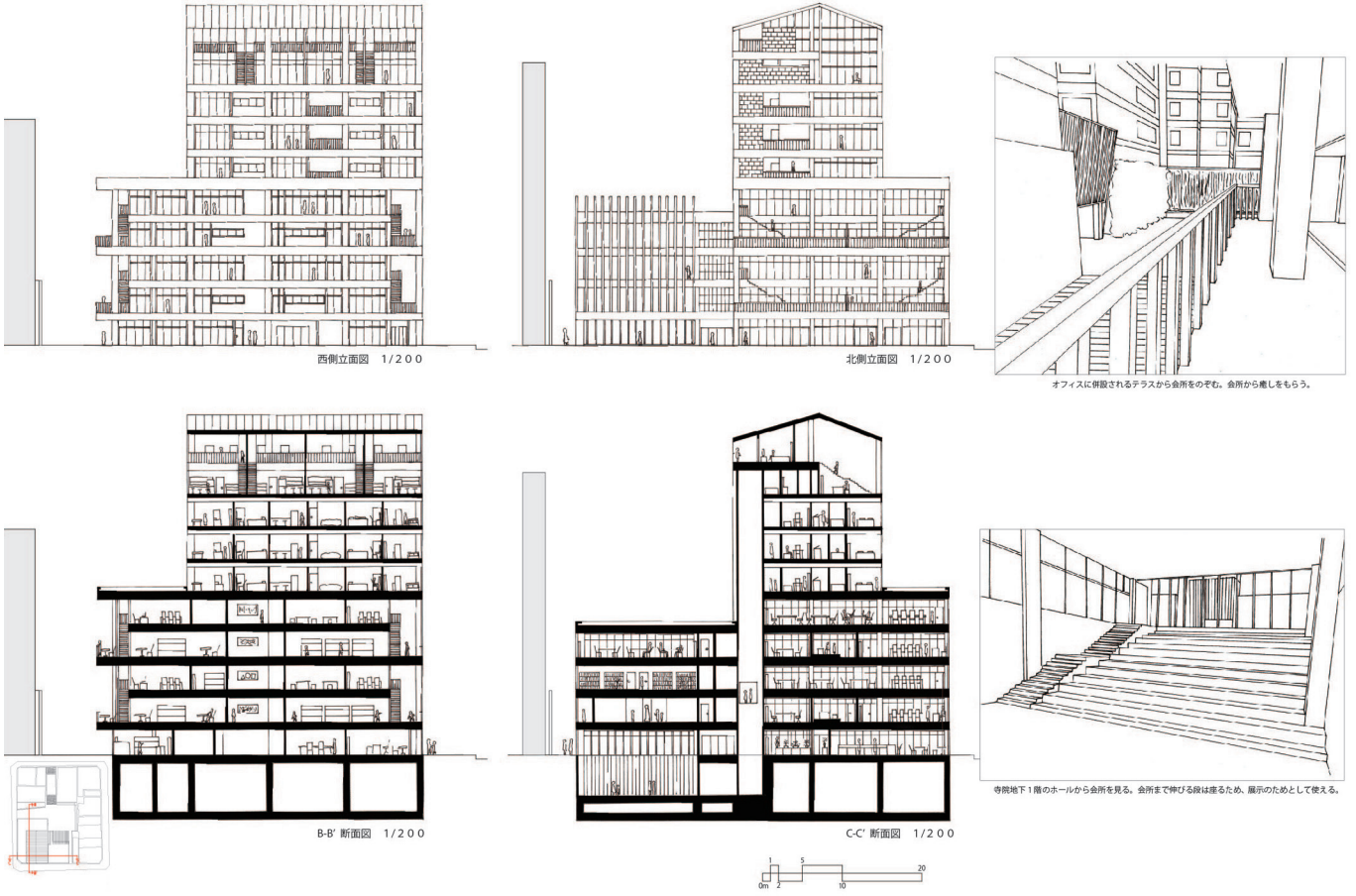
A-A'断面図 1/200



ギャラリーを通る。ハネルを立てることで展示をおこなう。会所までの楽しみが生まれる。



7. 立面図・断面図



8. 将来像

街区ごとに会所を計画する。都市はビルで埋め尽くされた固いものから、表情を柔らかいものへと変えていく。街区同士は会所路地を用いてつながる。会所空間は、オープンでありながら、プライベートな一面をもつ。ここでは、人と人、モノとモノ、思いと思いが交わりあう空間が生まれる。

